

男子も女人も章(五帖第四通)

そもそも、男子も女人も、罪のふからんともがらは、諸仏の
悲願をたのみても、今の時分は未代悪世なれば、諸仏の御ちか
らにては、なかなかかなわざる時なり、これによりて阿弥陀如来と
申したてまつるは、諸仏にすぐれて、十悪五逆の罪人をわれた
すけんという大願をおこしなましめて、阿弥陀仏と成りたまえ
り、この仏をふかくたのみて、一念御たすけ候えと申さん衆生を、
われたすけずは正覺ならじと誓い申します彌陀なれば、われら
が極樂に往生せんことは、さらに疑なく、このゆえに、一心一向
に阿弥陀如来たすけたまえとふかく心に疑なく信じて、わが身
の罪のふかきことをばうちすて、仏にまかせまいらせて、一念の

信心定まらん輩は、十人は十人ながら、百人は百人ながら。

みな浄土に往生すべきこと、さらに疑なし、このうえには、なおな

おとうとくおもいたてまつらんところのおころんときは、

南無阿彌陀仏南無阿彌陀仏と、時をもしわすところをもしら

わず、念仏申すべし、これをすなわち、仏恩報謝の念仏と申すな

り、

あなかしこ　あなかしこ

男子も女人も章の大意

男も女も、罪の深いものたちは、諸仏のお慈悲をたよりにして

も、今は末法の世なので、諸仏の力ではとても救われません。

ところが、阿彌陀如来は、十惡五逆の悪人をも救うというす
ぐれた願をおこし、み仏となられた方です。「私を深くたのんで二
心なく信じる衆生をたすけることができなければ、私はさとりを
ひらかない」と誓われた阿彌陀如来ですから、私たち衆生が浄
土に往生することは疑いありません。ですから、いかに自分の罪が
深くとも、一心に阿彌陀如来におまかせして、おたすけくださいと
疑いなく信じたものは、十人は十人、百人は百人、みな浄土に
往生することはまちがいありません。

このように信心が決定した後、尊いことだと思ふ心がおこった
ときは、時や所に関わらず、南無阿彌陀仏、南無阿彌陀仏と
念仏すべきです。これを仏恩報謝の念仏と申すのです。